令和４年度　第６回タウンミーティングの概要

１　団体名　　奈良小学校区連絡会
　　代表者　　会長　森田和弥

２　開催日等
（１）開催日　令和４年１２月１７日（土）
（２）会　場　奈良公民館
（３）テーマ　奈良地域のこれからについて

３　意見交換の概要
※ [　　] 内はミーティング終了後、所管課で補足したものです。

市民　小中学校の統廃合について質問します。
熊谷市の公共施設マネジメントにおける個別施設計画は計画のとおり進んでいますか。
奈良小・中学校の統廃合が２０３０年から３４年になっていますが、地域への説明会はいつごろから始まりますか。
また、奈良公民館がアグリメイトに移転予定で、２０２４年に解体とありますが、予定のとおり進みますか。

市長　まず、奈良小・中学校の統廃合については、今年が２０２２年ですので、最長で１２年先になります。いろいろ考えていただく中で、あまり後ろ向きにならないで欲しいと思います。もちろん校舎自体も古くなりますが、大前提は子どもたちが減ることによる統合です。例えば、一クラスが１０人とか１５人になると、先生との距離は短くなりますが、体育やグループ学習で学ぶことも多いですし、中学生になり部活動をするときに、少人数ではできないスポーツがあります。学校を守る議論が必要になることもあるとは思いますが、まずはお子さんの教育環境を考えてください。
地域を守り、外から人を奈良地区に持ってくる努力をして、１２年後までに児童・生徒が減らなければ、今の状況が維持されることも理解して欲しい。要は、少子化で１２年の間に子どもが減って、教育環境を維持するために一つの学校にまとめる必要があることが、一番重要なところです。学校が古くなったからとか、使えなくなったからだけではありません。学校の統廃合については、お子さんたちの教育環境も含めて議論してください。
次は、公民館についてです。奈良地区では、公民館をアグリメイトに移す計画です。これが２０２４年度ですので、スムーズに進むようにしたいと思っています。富岡前市長さんからは、公民館等の集約・機能受入れ先として市内に７つの

生涯活動センターを整備するという引継ぎをしました。

しかし、各地区の公民館活動の拠点を７館にまとめることばかりが表に出てしまい、心配をおかけしていますが、奈良地区はアグリメイトを公民館同様に使える環境を整えますので、駐車場が少ないことを除き、ほかの地区から羨ましく思われる環境だと思います。

アセットマネジメントで、学校や公民館の統廃合が行なわれますが、新しいものも造っていきます。八木橋百貨店の北側にある市民ホール（中央公民館）は、大通りから目立ちません。皆さん方の目に留まり文化の発信ができるように建て替えを考えています。当初、市役所の駐車場内に予定していましたが、コロナ後の駐車場の利用状況などを考えて、新たな場所を選定中です。

そして何よりも私の公約でもありました市民体育館の建て替えも動き出しています。当初５０００人としていましたが、今、３５００人を超える規模の体育館としています。５０００人規模の体育館を造るにはもっと駅から離れれば簡単なのですが、熊谷駅から歩いて５分のところにある新しい体育館、これが熊谷の宝になると思っています。熊谷には高速道路のインターチェンジがありません。これに代わるものは熊谷駅です。この駅を有効に活用するために、駅から歩いて５分の体育館を建て替え、スポーツをする人たちはもちろん、今後は観ることも含めてスポーツなどを楽しんで欲しいと思います。新しい名刺に時間を書きましたが、熊谷まで新幹線で東京から３８分、新潟から１時間２２分、そして長野から１時間５分です。この新幹線の強みを生かし人を呼び込むためのアセットマネジメントであり、体育館の建て替えなのです。

すでに動き出しているのが、蚕業試験場跡地ひろばに建設する子育て支援・保健拠点施設です。こどもセンターや保育所や児童クラブ、保健センターや休日・夜間急患診療所などを集約し子育てと保健の支援環境を整えます。一方通行の道路に挟まれ、使い勝手が悪いかもしれません。特に４つの保育所を１つにするので、朝夕の送迎時の混雑もあろうかと思います。これに関しては駅近くでお子さんを預かりバスで保育園まで連れていき、退勤時にはお子さんたちが駅近くで待つという形で、電車通勤の方に、より使いやすい保育所にしたいと思っています。

（施設マネジメント課） 現在の個別施設計画では、奈良公民館は、アグリメイトに機能を移転した後に除却し、比較的新しい施設であるアグリメイトは、耐久年限まで公民館としても使用することとしています。

また、アグリメイトが耐久年限を迎え、将来的には、生涯活動センターに機能を移転する計画としていますが、この機能移転の前後に（仮称）地域会館の整備も考えています。

（中央公民館） （仮称）地域会館については、将来（おおむね2055年度以降）におけるアグリメイト廃止に合わせての整備を想定しています。

市民　次に今後の農業についてです。

農業従事者の高齢化対策について伺います。

次に、小規模農業で経営が成り立つための支援策等はありますか。

最後に、６次産業を活用した農業についてお聞かせください。

市長　農業の高齢化対策ですが、熊谷市の農業者の平均年齢は、７０．５歳です。まさに、高齢者対策と小規模農業の経営は、一つのテーマだと思っています。県とも話をしているのは農地中間管理機構を使っての農地中間管理事業です。個人で農業を続けるのが難しい時代ですので、各地域で農業関係者をまとめて、農地を管理していただきます。

次に小規模農家への支援ですが、厳しいですよね。特に米麦では、農業機械をはじめとする設備投資にお金がかかります。県、国の補助金や、できる限り市としても対応策を考えながら、農業環境の維持を図りたいと思います。

高齢化と小規模農業の問題については、明確な答えが出しづらいのも御理解いただきたいと思います。ただ、生産・加工・販売によって収入を得る６次産業化には、新・道の駅「くまがや」に、直売所など皆さんが作った農業商品を販売できる環境を作りたいと思います。

もう一つは、例を挙げると江南地域のさつまいも専門店「芋屋 TATA」さん。それから、妻沼地域のブルーバンブーファームさんは自家で搾乳した乳を使ってジェラートを作って販売しています。道の駅「めぬま」でも飛ぶように売れているそうです。そして、「花咲く！ピクルス」を御存知ですか。野菜の酢漬けです。自家の大根、きゅうり、かぶなどをピクルスにして奇麗な瓶に詰めて販売しています。皆さんも、ぜひ、何か新しい挑戦をして欲しいと思います。

意欲ある農業者に対しては、今後農業機械設備の購入費用や収入保険の保険料に対する一部補助等の支援も考えています。

私自身は、熊谷の農作物を高く売りたいと思っています。景気が悪くてもいいものであれば買いたい人がいます。値段ではなく、しっかりといいものを提供する。そういう例をいくつか作り、小規模農家でも農業を続けられるという想いを持って次の一歩を歩める環境作りに努力したいと思います。

（農業振興課） 奈良地域は、全て農地中間管理事業の実施区域です。今後も地域の農業関係者とともに事業の推進を検討していきます。

令和5年度新規事業として、「元気な農業支援事業」で農業機械設備の購入費一部補助を行います。また、「収入保険加入推進事業」で農業者が支払う保険料の一部を補助し、自然災害等による収入減少を補償する収入保険の加入を推進します。

市民　次に少子化対策についてです。

子育てするなら熊谷市ということで、給食費の第３子以降無償化や高校生ま

で医療費無料等の事業を実施していますが、今後取り組む予定の施策等ありますか。

市民協働「熊谷の力」空き家利活用促進事業はとても良い施策と考えますが、それを活用して、移住者増につながればよいと思います。何か考えていることはありますか。

奈良地区は全地域が市街化調整区域で基本的には建物を建築することが抑制されています。熊谷市で田園まちづくり条例を活用し、地区内に５か所住宅等が建築できる区域が指定され、住宅等が増えましたが、今後、住宅や店舗等を増やすための新しい施策はありますか。

市長　まず、給食費の無償化についてですが、熊谷市で給食費を無償化すると約６億円かかります。これについては、お子さんを育てる費用の一環として、家庭に負担していただきたいという判断をしました。一食約５００円のうち約５０パーセントを市が負担しています。お子さんが３人以上いる場合には、３番目以降のお子さんの給食費を、一番上のお子さんが１５歳まで無償であったものを１８歳まで無償として３番目のお子さんに配慮することとしました。

また、子育てするなら熊谷市ということで、新たな保育園でのお子さんたちの預かりを、電車を使って通勤している方に対して、駅で預けて駅で引き取ることによって、子育ての負担を少しでも減らせるようにしたいと考えています。

少子化については、晩婚化や、結婚を望まない方もいるようです。若い方たちに新たに家庭を作り、社会生活をしていただける環境を作ることも必要ですので、お知恵がありましたら、アドバイスいただきたいと思います。

次に空き家の問題です。空き家バンクを作り空き家の円滑な流通に努めてきました。一方で倒壊の恐れがある空き家などのいわゆる特定空家等については、市が所有者に代わり取り壊しもしています。

熊谷市田園地区まちづくり条例に基づくまちづくり計画の認定区域は、特に、奈良地区は多いです。ここは、住宅は建てられますが、まだ全部埋まっていないようなので、今後も集落の活力を維持していけるよう、生活便利性を高める取り組みを推進します。

市民　手押信号機については公安委員会かと思うのですが、市は全くノータッチなのでしょうか。小学校の近くに変な箇所が２か所あります。

１か所目は奈良小学校西側の東武熊谷線跡地道路に新たに設置された信号機です。なぜ小学校から一番近い交差点でなく、そこから１００メートル南についたのでしょうか。既設の信号機から１５０メートル以上離す決まりがあるのは知っています。しかし、誤認防止が目的なので、建物の陰で見えないのだから小学校に近い位置に設置できたのではないでしょうか。

もう１か所は、集福寺の南の手押信号で、その交差点は斜めに交差していて、手押しボタンの位置がその交差点からちょっと熊谷寄りについています。たまたま信号機の柱が電柱と近くて通りづらいのです。自転車で通る中学生なども多いので電柱に共架するなど、通りやすくしてほしいのです。

市長　確かに結論を出すのは県公安委員会です。市から皆様方の要望を県に上げます。２か所目についても警察と協議をさせていただきます。

（安心安全課） 東武熊谷線跡地道路整備の協議時には、小学校からも御相談の交差点への設置要望があり、市からも警察へ要望しましたが、県道の交差点との距離が近いことから、警察の指導により現在の場所への設置となった経緯があります。改めて警察へ確認しましたが、状況が変わっていないため、御相談の交差点への設置は難しいとのことですので、御理解いただきたいと存じます。

なお、路線全体を確認し、スピード落とせや交差点注意の看板設置を行いました。

また、集福寺の南の手押信号について、警察へ検討を依頼したところ、現状で通行に支障があるとは言えないため、移設は難しいとのことでした。